

ラオス出張報告書

医学部医学科 1 年次 大山恵理子

ラオスでの 2 日目は、医学生の方々との交流がとても印象に残っています。彼らはとても上手に英語を話すのですが、私があまり上手に英語を話せないせいで、会話中に何度も言い直したり、最後まで話すことを諦めそうになったことも何度もありました。しかし、それでも話を聞いてくれて、ラオスのことや日本のことについていろいろな情報を交換することができました。

また、食事会でのダンスはとても楽しく、言葉に頼らないコミュニケーションで人と人が繋がることのできる素晴らしさを実感しました。ホテルに帰る間際まで学生みんなで輪になって踊ったことは忘れられません。

3 日目の午前は、口唇裂の患者さんの手術を見学させていただきました。

手術室に入る事や手術を見学することは初めてであった私にとって、手術中の手術室でのルールや室内の機械類について先生方や先輩方に教えていただいたり、実際に執刀の様子を間近で見学させていただいたのは、とても貴重な経験でした。

手術後、患者さんの父親にお会いしたとき、会話をすることはできなかったのですが、彼がとても喜んでいることや感謝していることが、表情や、両手を合わせる仕草から伝わってきました。

手術の見学は、実際はそうではないと知っていながらも、自分が住んでいる国や地域で必要とする医療を受けることができる状態を当たり前だと思ってしまう私にとって、考えを改めるきっかけとなりました。また、海外と日本国内では事情は大分異なるのですが、私も将来は必要とされる場所で必要とされる医療を提供できる医師になりたいと強く思うようになりました。

まだ医学の知識もほとんどない私ですが、この経験を将来に生かし、患者さんに喜びを与えられる医師になれるよう、努力したいと思います。

今回は、ラオス出張という素晴らしい機会を与えていただき本当にありがとうございました。